

第 23 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA オンラインアジア大会(動画審査) 総評 大学生部門

●審査員 A

- ・ほとんどの皆さんはピアノ演奏を楽しんでいらっしゃるように思いました。その気持ちを忘れないでください。
- ・ショパンの音楽スタイルは独特で、声楽的(=旋律的)な部分と華やかな(=超絶技巧的)部分があります。それぞれの対比を意識しながらも、大規模で複雑な構成がひとつのまとまりとして聴こえるように演奏しなければなりません。
- ・それぞれの作品のタイトルに基づいて、適切な演奏手段を探さなければなりません。
- ・もっとショパンのルバートに注意を払い、適切な方法で使えるように練習しましょう。
- ・のびのびと自然に演奏すること。もちろん、一定の範囲内という意味ですが、音楽に気持ちを委ねること。
- ・テンポの選択は、楽譜の指示や音楽表現に適したものであることが望ましいです。
- ・楽譜に書かれているすべての記号をよく読み、尊重すること。
- ・ピアノを弾く姿勢にも注意を払いましょう。音の質にも関わるからです。
- ・ペダルも大切な表現手段だと考えましょう。

●審査員 B

参加者の皆さまへ

結果に関係なく、皆さんにお祝いを申し上げます。感染症の蔓延しているこの難しい状況にも関わらず、皆さんの人生の中に音楽があるということ、そしてショパンの名曲の美しさを発見するために皆さんが多大な努力をなさっていることを嬉しく感じます。すべての音源を聴き終えての感想を述べたいと思います。ショパンの音楽を正しく理解するために最も重要なことは、ルバートとシンプルさ、テンポのバランス、指先の力強さと繊細さなど、ちょうどよいバランスを探して演奏することだと思います。作曲家が書いた楽譜の指示(強弱、テンポ、表現など)を尊重することは常に重要です。表現を誇張しないよう気をつけましょう。ショパンのスタイルは、ラフマニノフやチャイコフスキーとは異なります。

皆さんの今後のご活躍を祈念しています。これからも技術や音楽的な想像力を磨いてください。

ピアノが上達するということは、日々より良い人間になるということです。ショパンやバッハ、ベートーベンの音楽の美しさを他の人々と分かち合うことは、私たちにできる最も素晴らしい贈り物のひとつであり、これは何ものにも代えがたいことだからです。

●審査員 C

まず、新型コロナウイルスの世界的な大流行という大変長く困難な状況下において、伝統ある「第 23 回ショパン国際ピアノコンクール in Asia」を開催することができたのは、皆様のご尽力のおかげであると感謝し、お祝い申し上げたいと思います。確かに平時とは異なる条件ではありましたが、最も重要なことは、このコンクールが開催されたことです。ブラボー！このコンクールは、その芸術的なレベルの高さだけでなく、本選参加者数と開催部門数が非常に多いことでも、長年にわたって注目されています。

私が審査を担当させて頂いた高校・大学部門の芸術的なレベルは総じて非常に高かったのですが、同時に非常に多様でもありました。動画審査では通常、極めて異なる音響条件で録音された音源を聴くことになるので、審査員が完全に客観的な評価を下すことは困難だと感じました。高校生部門と大学生部門の課題曲はほぼ同じだったので、両部門合計 62 名の演奏について、私の全体的な印象を簡単に述べたいと思います。

全体的に、エチュードで発揮されたテクニックは注目に値しました。しかし、ショパンの音楽の解釈の価値は、卓越した技術だけでは成り立たず、また技術とだけ直接結びついているわけでもないということをお覚えています。実際、バラード、スケルツォ、ソナタ、ポロネーズなどでは、耳で聞いても目で見ても重大な解釈の問題にしばしば遭遇しました。

ピアニスティックな技術的困難と格闘しているだけではなく、作品の内容の奥深さをはっきりと理解している解釈には特別な注目と評価が与えられることをここで強調しておきたいと思います。特に注目と評価が高まるのは、楽譜の内容を細部にわたるまで正確に演奏するだけでなく、自分自身の演奏の語り口（ナレーション）を注意深く聴くことでその才能を発揮し、豊かな創造力と芸術的個性の力を通して聴衆に「この演奏家の解釈をもっと聴きたい」と思わせてくれるような若い音楽家です。しかし、このような印象は、私たちが「才能」と呼ぶものの基本条件である、ある種の芸術的個性を持ったピアニストに接したときのみ得られるものです。そして、長年の努力の末に、「良いピアニスト」は「真の芸術家」へと変身することができるのです。

しかし、多くの場合、若いピアニストは、楽譜に書かれた音符を正しく演奏することを最大の課題と目標としているように思われます。もちろん、そのような姿勢は若い音楽家にとって非常に重要で貴重です。しかし、それだけでは、自分の感情や表現、想像力を効果的に聴衆に伝えるには足りません。私たちピアニストは、常に誰かのために演奏し、楽譜に隠された何かを演奏によって伝えなければなりません。私たちの仕事は、その内容を探し出し、想像力と創造力の結晶である語り口（ナレーション）によって聴衆に伝えることなのです。

フレーズとその構成、メトロノームではなく作品の内容に基づいた滑らかで柔軟性のある語り口、様々なアーティキュレーション、自制と節度のあるアゴーギクや強弱、細部までコントロールされたペダルの使い方、曲の形式と和声構造を深く理解することについてなど、解釈を行う上での重要な要素についてはいくらかでも書き続けることができますが、これらの要素は表現の源ではなく、あくまで表現の結果でなければなりません。またこれらはすべて、音楽史、作曲された時代の様式、作曲家の芸術的なスタイルや他の作品についての知識によって、十分に裏付けられたものでなければなりません。

この通り、ピアニストや音楽家という職業は、決して楽なものではありません。幸いなことに、今回私が聴かせて頂いたファイナリストたちの演奏は、指導者の助けと自らの努力によって、期待通りの非常に良い結果を出せる非常に多くの優秀な若者たちがいることをはっきりと示していました。コンクール

に参加する重要な目的は、賞をとることではないということをお忘れなくください。しかし、コンクールに参加することで、意識的にレパートリーを増やすことができ、具体的な期限までに課題を仕上げるという目標になり、また向上心や集中力を高めることもできます。コンクールは、若い音楽家の成長にとって、大切にポジティブな経験なのです。

末筆ながら、コンクールに参加された皆さん、先生方、保護者の皆さんのご多幸をお祈り申し上げます。子供たちや生徒たちの芸術的な成果を喜びながら、若い皆さんの才能が自然と開花していくことを穏やかに見守りましょう。

●審査員 D

大学生部門としてはレベルが高く、エチュードも曲も完成度の高い演奏が多かったと思います。中には確実性ばかりに捕らわれて、今一つ表現が伝わってこない演奏もありましたが、楽譜を忠実に再現しつつ、ショパンの音楽を十分に語って頂きたいものです。これから更に研鑽を積んで、コンチェルトやプロフェッショナル部門を目指してほしいと思いました。

●審査員 E

参加者それぞれ、これまでの経験をもとに大学生に相応しい選曲に真摯に取り組んでありました。総じて結果に多くの差はなかったように感じました。しかしながらその中で、エチュードに関しては構成の整理やテクニックの完成度が様々でした。言うまでもなくエチュードの性格を持ったショパンの絶対的の魅力ある芸術作品であることを見失わないでほしいです。自由曲に対する探究度も様々でした。スケール大きく楽器を鳴らし切って自分の世界を魅せた人もいましたが、反面せっかく細やかに確実性をもって演奏しているのにこちらの心に伝わらない一方的な演奏もありました。もっと音色にこだわって楽器をコントロールできるよう深掘りを希望します。エチュード、自由曲の両方をともにレベル高く安定させることを目指してください。

●審査員 F

コロナ禍で録音するのも大変とは思いますが、皆様、よく頑張っておられました。敬服致します。一生懸命弾く事に集中しておられる方、何かを表現しようとしておられる方、いろいろでした。ルパートも自分勝手にするのではなく、楽譜から深読みして、意味解釈して、ショパンが何を表現したかったかを音（色）に変えて表現できるといいなと思いました。知性・感性・技術が上手に融合できるといいですね。よく自分の音を聞いて演奏して下さいね。